

令和5年度 事業報告

自 令和5年4月1日

至 令和6年3月31日

一般財団法人 MOA健康科学センター

I 法人の概況

1. 役員に関する事項

役員一覧

(令和6年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先/役職
理事長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
専務理事	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
常務理事	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
理事	渡瀬 信之	東海大学 名誉教授
〃	陽 捷行	北里大学 名誉教授
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長
〃	佐久間哲也	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長
業務執行理事	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
監事	石原 義之	東方之光 理事
〃	今野 明彦	東方之光財務委員会 財務部長

計15名 (理事/13名 監事/2名)

2. 評議員に関する事項

評議員一覧

(令和6年3月31日現在)

氏名	勤務先／役職
長南 征二	東北大学 名誉教授
蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
横山 茂弘	東方之光 理事
水野 昌司	公益財団法人農業・環境・健康研究所 常務理事
小菅 豊弘	株式会社エム・オー・エー商事 取締役
大門 一樹	東方之光国際委員会 事務局長
笹岡 勝利	一般社団法人MOAインターナショナル MOA TOKYO 地区長

計8名

3. 顧問に関する事項

顧 問 一 覧

(令和6年3月31日現在)

役職名	氏 名	職 業 等
顧 問	チャクリット・プーミサワット	元タイ国衛生省事務次官室監査委員会 監査官
同	牧 美輝	医療法人財団光輪会 理事長

計2名

4. 事務局員に関する事項

事務局員一覧

(令和6年3月31日現在)

事務局長	八木澤幸生
事務局次長	泉谷 明宏
事務局次長	柴田 和廣
事務局次長	利見 晃二

計4名

5. 研究スタッフに関する事項

研究スタッフ一覧

(令和6年3月31日現在)

研究部部长	片村 宏 (医師、医学博士)
研究部次長 主任研究員	木村 友昭 (博士 (医学))
〃	内田 誠也 (博士 (工学))
研究部課長 研究員	加藤孝太郎 (博士 (農学))
研究部課長代理 研究員	田中 英明 (博士 (公衆衛生学))
客員研究員	津田 康民 (博士 (理学))
〃	深澤 大輔 (あん摩マッサージ指圧師)
〃	富嶋 謙之 (准看護師、メンタルヘルス心理カウンセラー、公認心理師)

計8名

6. 研究推進委員会および治験審査委員会に関する事項

令和5年度委員一覧

(令和6年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先/役職
委員長	鈴木 清志	一般財団法人MOA健康科学センター 理事長
副委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
委員	長南 征二	東北大学 名誉教授
〃	木嶋 利男	伝統農法文化研究所 代表
〃	松尾 汎	医療法人松尾クリニック 理事長
〃	森岡 尚夫	医療法人財団玉川会 理事
〃	立川 豊吏	医療法人財団愛和会 理事長
〃	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事
〃	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	中島 宏平	一般社団法人MOAインターナショナル 理事長
〃	田淵 浩康	公益財団法人農業・環境・健康研究所 業務執行理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長代理

計16名

7. 編集委員会に関する事項

令和5年度委員一覧

(令和6年3月31日現在)

役職	氏名	勤務先／役職
相談役	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長
委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部次長
副委員長	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長
委員	柴 維彦	医療法人財団玉川会 理事
〃	八木澤幸生	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	利見 晃二	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター 研究部課長代理

計9名

8. 倫理審査委員会（利益相反管理委員会兼任）に関する事項

令和5年度委員一覧

（令和6年3月31日現在）

役職	氏名	勤務先／役職
		（医学・医療の専門家、自然科学の有識者）
委員長	片村 宏	医療法人財団玉川会 理事長（医学博士、医師）
副委員長	木村 友昭	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（医学））
委員	蝦名 玄大	医療法人財団瑞泉会 理事（医師）
〃	有馬佐和子	医療法人財団玉川会MOA新高輪クリニック 看護師長（看護師）
〃	内田 誠也	一般財団法人MOA健康科学センター 理事（博士（工学））
〃	加藤孝太郎	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（農学））
〃	田中 英明	一般財団法人MOA健康科学センター（博士（公衆衛生学））
		（倫理学・法律学の専門家、人文・社会科学の有識者）
副委員長	宇田川和也	宇田川和也法律事務所 所長（弁護士）
委員	佐田 喜朗	國學院大學大学院文学研究科（日本宗教学会会員）
〃	西 一嘉	翻訳家（博士（社会学））
〃	宮島 晶子	東方之光教学祭事プロジェクト事務局
		（一般の立場）
委員	豊田 益代	管理栄養士
〃	田中千枝子	カウンセラー
〃	三井 淳子	一般（修士（工学））
〃	坂口 弘征	医療法人財団玉川会 事務長
〃	泉谷 明宏	一般財団法人MOA健康科学センター 事務局次長

計16名

9. 理事会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和5年6月3日 定例理事会	令和4年度事業報告案承認に関する件、令和4年度決算報告案承認に関する件、定時評議員会招集及び提出議案に関する件、その他
令和6年3月2日 定例理事会	令和5年度収支補正予算書承認に関する件、令和6年度事業計画案承認に関する件、令和6年度予算案承認に関する件、令和6年度顧問・委員・客員研究員の委嘱に関する件、人事に関する件、その他

10. 評議員会に関する事項

開催日	主な審議事項
令和5年6月25日 定時評議員会	令和4年度事業報告の内容報告の件、令和4年度計算書類等の承認に関する件、令和4年度事業計画及び予算の件、その他
令和5年7月26日 臨時評議員会 (みなし決議)	新監事選任の承認に関する件
令和6年1月26日 臨時評議員会 (みなし決議)	新監事選任の承認に関する件

II 事業の概要

1. 総括

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し多くの規制が緩和された。様々な行動習慣や意識は変容し、新しい生活様式として定着してきている。元旦には能登半島で震災が発生し、被災者へ寄り添ったケアや地域における繋がり大切さが改めて認識されている。感染症、自然災害、国家間の戦争など多くの問題が起こり人々の生活や健康状態に影響している。

そうした中、人間を心と体とスピリチュアリティ（霊性）を含めた総合的なものと捉え、社会環境や生活環境などの影響を視野に入れた医療と、単に病気を治療するというだけでなく人々を幸福な状態へ導くことのできる医療システムの構築を望む声が高まっている。それに応えるためには、全人的な視点で一人一人を大切にする「医療モデル」と、さらにはお互いの健康を支え合いQOL（生活・人生の質）を向上していくコミュニティづくりや健康格差のないまちづくりを目指す「社会モデル」を合わせもつ統合医療の一層の充実に取り組むことが重要であると考え。本財団は「自然治癒力を生かす医学及び健康法」の普及を進める観点から、協力機関・団体と連携して、全人的医療や統合医療及び農医連携に関する調査研究活動並びに情報提供を進め、家庭や地域社会における健康づくりの推進に取り組んできた。

具体的には、全人的医療や統合医療として行われている心身の健康法、特に岡田式浄化療法をはじめとした岡田式健康法について、(一社)MOAインターナショナルや各医療機関と協力し調査研究に取り組んだ。海外では、タイ衛生省の伝統・代替医療局の視察を行い、統合医療に関わる連携を行っていくこととなった。その他にも、生活習慣とストレスの関連や岡田式健康法の調査研究、また、心的外傷後成長（PTG）に関する調査研究を進め、認知症に関連した研究が始まろうとしている。そして、研究推進委員会の小委員会において研究内容の検討を行い、倫理審査委員会による審査を経て自主研究を軸とした調査研究の推進を図り、学会発表や学術誌での公表などを積極的に行った。

また、医療法人と連携し震災での支援を行い、統合医療における社会モデルの重要性の理解が深まった。さらに、地域社会における健康づくり啓発運動として健康科学セミナーを実施し、統合医療及び農医連携に関する研究成果や健康づくり関連の情報を広く発信することに取り組んできた。これらの事業を通して、国民の健康づくり運動「健康日本21」（第二次）の推進に貢献するとともに地域に根ざした健康づくり活動の普及啓発につなげることができた。

加えて、健康度計測を積極的に実施することで、地域社会で生活する一人一人のライフスタイルの改善についてきめ細かい支援をするとともに、健康づくりに関する意識の向上を図ることができた。

以下、令和5年度の事業計画に基づき実施した事業活動の概要を報告する。

2. 調査研究事業

「心身ともに健康なまちづくり」に向けて、MOAインターナショナルとの連携強化と医療法人財団玉川会など全国の医療法人財団及び地方行政・団体と連携し、岡田式健康法（浄化療法・食事法・美術文化法）をはじめとした統合医療の医療モデルや社会モデルに係る調査研究を実施した。

(1) 東京療院との連携

東京療院で行われている各種健康法のエビデンスを得るためのデータ（岡田式浄化療法、運動、マッサージ、コントロール）の収集を行うとともに、岡田式健康法の実践と自律神経機能、肩こり度及び首尾一貫感覚（SOC）との関連性に関するデータの収集を行った。また、花を用いた療法に関する研究の実施と共に、「岡田式浄化療法とマッサージの併用に関する研究」についての総括を行った。さらに、岡田式健康法に関する症例・事例の作成に向けた連携を深めた。また東京療院が行った統合医療学会の発表に関するサポートを担った。

(2) MOAインターナショナルと連携した調査研究活動

① 「美味しいまちづくり」を推進するための食・農と健康に関する調査研究

1) 腸内細菌叢に関する調査研究

栽培方法の異なるニンジン摂取したヒトの腸内細菌叢の変化について、次世代シーケンス解析を委託した。現在、データ解析を進めている。

2) 農医連携に関する調査研究

有機栽培の技術指導付き市民農園が利用者の主観的な健康に及ぼす影響についての調査を進めた。

② 国内の統合医療に関する調査研究

社会モデルとしての東京療院と那須まちづくり広場との比較研究を行った。

③ 心的外傷後成長（PTG）に関する研究

心的外傷後成長（PTG）とスピリチュアリティ及び岡田式健康法をはじめとするライフスタイルとの関連について調査研究を実施し中間報告として学会発表を行った。

④ 研究に関する検討チームとの連携

MOA研究に関する検討チームに協力（事務局）して、審査15件（論文2件、学会発表を13件）を行った。

(3) 医療機関と連携した調査研究の推進

① 医療法人（玉川会、瑞泉会、光輪会、愛和会）との共同研究の充実

各医療法人のクリニック等の医療機関と連携し情報交換を行うとともに、医療機関が取り組む調査研究を支援した。名古屋クリニックで実施された半没入型VRの癒し効果の研究、末期がん患者を対象とした光輪花クラブに関する事例作成、島根県の児玉医院における岡田式健康法の研究などの協力を行った。

② 岡田式健康法による症例・事例調査及び作成

奥熱海療院で椎間板ヘルニアの改善に関する症例を作成し学会発表を行った。

(4) 国内外の研究機関、行政機関及び各種団体等との連携

① 各研究機関、大学等との連携

1) 農業・環境・健康研究所との調査研究及び人材教育の連携

自然農法大学の授業科目として有機農産物と健康に関する講義をはじめ岡田式健康法と統合医療に関わる講義を行った。研究業績検討会合を行い、研究の進捗状況と研究成果についての報告が行われた。

2) 広島大学医学部、日本大学国際関係学部、長崎県立大学、新潟大学、ヴィッテン・ヘルデッケ大学（ドイツ）等との連携

a. 広島市内の介護施設、広島大学、日本大学、及び長崎県立大学との共同研究

「障がい児の保護者におけるQOL、児童発達支援事業に対する満足度、および療育効果との関連」を検討し、論文を作成した。

b. 日本大学国際関係学部及び理工学部との共同研究

PTGと宗教的特性やスピリチュアリティをはじめとするライフスタイルに関する研究を実施した。

3) その他の大学及び研究機関との連携

② 行政機関、各種団体等との連携

1) 日本統合医療学会、日本応用心理学会との連携

鈴木清志理事長（日本統合医療学会代表理事補佐理事・国際委員会委員長）、木村友昭理事（日本応用心理学会常任理事・学会賞選考委員会委員長）、内田誠也理事（日本生理心理学会評議員）及び加藤孝太郎研究部課長（日本有機農業学会研究活動委員）は、各人が所属する学会において役職を担い貢献してきた。

2) タイ国の行政機関各種団体との連携

タイ国衛生省の視察を行い、今後の研究に向けた連携を行った。

3) 広島県の介護施設との連携、及び共同研究

介護・福祉共生型サービスの利用者の満足度および実態に関する調査研究を実施した。

4) その他の行政機関、各種団体等との連携

a. AIを用いた血液検査データによる認知症リスク評価と予防について、脳と心の健康科学研究所と共同研究を計画した。

b. 「信仰をもつ医療者の連帯のための会」及び「いのちの研究会」の開催に伴う運営等の協力を行った。

(5) 研究推進委員会、倫理審査委員会による研究体制の充実

① 研究推進委員会・小委員会の充実

内部研究小委員会を5回開催し、今後の研究のあり方と方向性の検討を進めた。具体的には、症例作成（石川県、東京都、佐賀県等）、臨床研究（東京療院、名古屋療院、広島療院等）、統合医療の医療モデルと社会モデルなどの検討を行った。

② 倫理審査と利益相反の管理に基づく研究の充実

1) 倫理審査の実施

倫理審査委員会では、「人を対象とする生命科学・医学系研究の倫理審査に関する規程」に基づき、6件の倫理審査申請に対して、新規の通常審査1件、迅速審査2件、計画変更の回覧審査3件の審査を実施した。

特に回覧審査は、一堂に会することなく審議ができるため、短期間での審議が可能になった。その結果、研究を中断することなく継続実施できるようになっている。

（通常審査、迅速審査の3件を以下に示す。）

a. 申請者：木村友昭（主任研究員）

「介護・福祉共生型サービスの利用者の満足度および実態に関する調査研究」（迅速）

b. 申請者：田淵 浩康（農業・環境・健康研究所 研究員）

「自然農法にて育成された新品種米の摂食が成人のアトピー性皮膚炎と腸内細菌叢に及ぼす影響」（通常）

c. 申請者：片村 宏（(医) 玉川会 理事長）

「AIを用いた血液検査データによる認知症リスク評価と予防に関する横断研究」（迅速）

また、利益相反管理委員会では、役員や研究責任者のCOI管理を適宜実施した。

2) 研究計画書の改定

国の倫理指針が、令和3年の改定に続いて、毎年一部改正されている。本財団の倫理規程の改訂も令和5年3月18日の理事会において決議の上、施行された。倫理規程の改訂に伴い、関係する書式も逐次変更し、研究計画書も令和5年10月に改訂を行った。

3) 倫理審査委員研修会の開催

コロナ禍の期間中、倫理審査委員の研修会の開催は見合わせていたが、令和5年の12月1日、通常審査の実施に併せて、倫理審査委員研修会を開催した。研修会では、副委員長である宇田川弁護士から、国の倫理指針改訂の要因となっている「改訂個人情報保護法」、「デジタル社会形成基本法」についてレクチャーいただいた。また、倫理規程改訂後、研究計画書も倫理指針に沿った内容にリニューアルしたことについて事務局から報告と説明が行われた。

(6) 新規研究に関する情報収集及び人的交流、研究人材の育成

茨城県看護連盟との連携を図った。統合医療学会の理事である鶴岡医師との懇談及び連携

を行った。

(7) 災害支援

各療院と連携して能登半島大震災の被災者への復興支援として花によるケア、炊き出し、マッサージをはじめとする各種療法による支援及び健康相談を行った。

3. 普及、広報活動の充実

「心身ともに健康なまちづくり」の推進に向けて、岡田式健康法の研究成果を分かりやすく社会に紹介する資料の作成やインターネットを活用した情報の発信を積極的に行った。また健康づくり啓発のために健康チェックの充実に努めた。

(1) 東京療院を中心とした普及広報の支援

東京療院で健康チェックを93回(前年度99回)実施し、1,034名(前年度比13%増)を受け入れ、301,250円(前年度比66%増)の寄付金をいただいた。その内、MOAの会員でない方の割合が11%であり、レストラン榊の木や旬、グリーンマーケットからチラシや紹介されてこられた人たちであった。健康チェック体験後に心身の健康増進のために岡田式健康法へご案内できた事例があった。

(2) 「これからの医療とまちづくりシンポジウム」(地方開催)の支援

① これからの医療とまちづくりシンポジウム in 新潟(主催)

- 1) 日時: 令和5年10月29日(日)13時~15時30分
- 2) 会場: 新潟日報メディアシップ2階日報ホール、リモート3会場、YouTube視聴
- 3) 参加者: 170名、リモート会場3会場87名、YouTube視聴145名
- 4) 内容
 - a. 基調講演 加藤 眞三 医療法人財団玉川会エム・オー・エー高輪クリニック院長
慶應義塾大学名誉教授

b. パネルディスカッション

- パネリスト 石塚 美津夫(農) 夢の谷ファーム 副代表
芦田 みつき グリーンマーケットMOA三条店 店長
真田 誠一 新潟市傾聴ボランティアこころ 代表
内田 誠也 MOA健康科学センター主任研究員
コーディネーター 山崎 理 新潟県病院事業管理者(病院局長)

② 第2回「美味しいまちづくり」シンポジウム in ちば(後援)

- 1) 日時: 令和5年8月26日(土)13:00~15:30
- 2) 会場: プラッツ習志野 習志野市民ホール
- 3) 参加者: 256名
- 4) 内容

- a. 基調講演 川野 泰周 医師・臨済宗建長寺派林香寺住職
- b. パネルディスカッション
 - パネリスト 立石 晃一 MOA自然農法千葉中央普及会
 - 岡野 哲也 (ビデオ出演) MOA自然農法東庄普及会会長
 - 峰岸 静代 東庄産直米事務局
 - 内田 誠也 (一財) MOA健康科学センター主任研究員
 - コーディネーター 鈴木 ひろ子 千葉県会議員

(3) 研究成果の公表

① 編集委員会による研究報告集第27巻の発刊

編集委員会を2回開催し、研究報告集第27巻を令和6年2月4日に発刊した。本巻の掲載論文は6報（「研究報告」2報、「実践・事例報告」1報、「短報」1報、「転載」2報）であった。なお、「短報」は、研究報告集の内容充実を図るため、令和5年11月5日の編集委員会において、執筆要項に「短報」、「レター」を新設したものである。

1) 研究報告

- a. 「障がい児の保護者における支援サービスの満足度と療育効果」
木村友昭、堀島由利、林田りか、伊坂裕子、烏帽子田彰
- b. 「マッサージと岡田式浄化療法の併用効果や安全性について」
内田誠也、深澤大輔、角啓二、尾崎満

2) 実践・事例報告

- a. 「地域のいけばなクラブが末期がんの診断を受けた女性の人間関係に及ぼした良い影響について —MOA美術館光輪花クラブの一事例—」
柴維彦、田中英明

3) 短報

- a. 「統合医療の社会モデルを実施するコミュニティの特性について
—ホモフィリーの視点に基づく—考察—」
田中英明、柴維彦

4) 転載

- a. 【報告】「岡田式浄化療法施術後の末梢血PD-1発現CD8+T細胞、QOL、およびスピリチュアリティの変化」
江副健一、赤木純次、牧美輝、木村友昭
- b. 【調査報告】「家族参加型有機菜園プログラムにおける参加者からのフィードバック
：親のスピーチの計量テキスト分析」
中川祥治、菅原啓順

② 各種専門学会への発表

1) 第41回日本生理心理学会大会

発表者：内田誠也（主任研究員）

タイトル：首尾一貫感覚とライフスタイルとの関連について

2) 日本応用心理学会第89回大会

a. 発表者：内田誠也（主任研究員）

タイトル：花を用いた心理療法で作成された生け花画像の評価に関する検討

b. 発表者：田中英明（研究員）

タイトル：心的外傷後成長に関連するライフスタイル因子について

3) 第27回日本統合医療学会

a. 発表者：片村宏（常務理事）

タイトル：コロナ禍におけるリモート・サポート・ミーティング（RSM）の取り組み

b. 発表者：内田誠也（主任研究員）

タイトル：心身のストレス状態およびライフスタイルの総合評価システムの開発

c. 発表者：有馬佐和子（理事）

タイトル：統合医療施設における相談シートを活用した地域コミュニティとの連携

d. 発表者：柴維彦（評議員）

タイトル：簡易的な半没入型VRを用いたクリニック外来待合室での癒しについて

e. 発表者：豊田益代（倫理審査委員）

タイトル：岡田式食事法に基づく糖質制限食により血糖コントロール指標が顕著に改善した2型糖尿病の一例

f. 発表者：富嶋謙之（客員研究員）

タイトル：岡田式浄化療法（生体エネルギー療法）が全人的ケアに役立った一事例

g. 発表者：片瀬愛、内田誠也（主任研究員）

タイトル：肩の筋硬度計を用いたヨーガの効果

③ 各種学会におけるその他の企画

a. 日本応用心理学会第89回大会企画シンポジウム「ポジティブ心理学の潮流と応用」

司会・進行：木村友昭（主任研究員）

b. 第27回日本統合医療学会シンポジウム「スピリチュアリティと統合医療」

座長：鈴木清志（理事長）

④ 専門誌への投稿（医学系、科学系等）

1) 英文総説

“Okada Health and Wellness Program, a Whole-person Health program with Diet, Art, and Biofield Therapy to support Integrative Medicine in Japan”

「岡田式健康法：統合医療を支える食事・芸術・エネルギー療法による全人的健康プログラム」

鈴木清志、片村宏、中島宏平、田中英明、橋本聖子

掲載誌：Journal of Alternative Complementary & Integrative Medicine

(4) 広報資料の充実

① 会員誌と資料（冊子、DVD等）による情報提供

1) 会員誌「21世紀の健康科学」64号の発刊

第3回美味しいまちづくりシンポジウム in 千葉の内容、岡田式浄化療法の免疫機能への影響などを掲載した会員誌「21世紀の健康科学」第64号を発刊し、賛助会員・団体に情報の提供を行った。

2) 会員向けの資料(ニュースレター「すこやかだより」)の発行

千葉県市川市の地域住民の健康増進のために活動しているボランティアグループMOA食育ネットワーク千葉・ハピネスクラブの活動を紹介した「ニュースレターNo. 4」、および研究報告集第27巻を紹介した「ニュースレターNo. 5」を発刊することができた。

3) MOAインターナショナル発行の情報誌との連携

鈴木清志理事長が、MOAニュースレターに「岡田式健康法を科学する」を5回にわたり連載をした。

4) 講演会・セミナーや研究紹介の資料（冊子、DVD等）の作成と活用

各種テーマで研究員が行ったセミナーのDVDを119枚頒布した。

② インターネット配信の検討・充実

1) ホームページの更新と充実（MOA関連団体との連携を図る）

本財団の事業・活動に関する情報、健康チェックに関連する情報、研究成果等に関して定期的に更新することで、普及広報活動の情報発信に取り組んだ。

2) YouTube及びSNSの更新と充実

YouTubeで研究者による講演・セミナー等の動画を配信した。1年間のチャンネル登録者数は40名、総視聴回数は1,582回であり、岡田式健康法の有効性を広報できた。また、LINE公式アカウントによる健康チェックの広報活動も行った。登録者数は469名である。健康チェックのスケジュール情報の発信及びポイント付与などのサービスを行った。

3) 研究報告集の電子ジャーナルによる発信

当財団ホームページ上に研究報告集第27巻の論文のPDFファイルを掲載した。

③ 研究報告集（論文）および会員誌の外部団体・機関の図書館等への登録（送付）

(5) 講演会、研究会、セミナー、健康度測定の実施

全国各地の健康関連行事において、MOAインターナショナルと連携し、健康科学セミナーや健康チェックを行うなど、地域社会における健康づくり啓発活動に取り組んだ。今年度は、健康科学セミナーを11件、健康チェックを24件実施した。市川市民まつりや大仁瑞泉郷フェスタにおいて、健康チェックとMOAインターナショナルの浄化療法をセットにした体験コーナーを実施した。多くの方が浄化療法を初めて体験され、健康チェックによって効果を実感された。

健康科学セミナーと健康チェックを以下に示す。

【健康科学セミナー】13件 2,350名

- ① 「食育推進チーム」(熱海市) 6月30日 内田誠也主任研究員
- ② 「療院マネージャー会」(港区) 7月14日 木村友昭主任研究員
- ③ 「光輪祭セミナー」(箱根町) 8月1日 内田誠也主任研究員
- ④ 「青少年研修」(港区) 9月16日 内田誠也主任研究員
- ⑤ 「青少年研修」(台東区) 10月22日 田中英明研究員
- ⑥ 「グリーンマーケット1周年行事」(港区) 10月27日、28日 内田誠也主任研究員、加藤孝太郎研究員
- ⑦ 「大仁瑞泉郷まつり」(伊豆の国市) 11月13日 加藤孝太郎研究員
- ⑧ 「神奈川歯科大学大学院統合医療講座」(港区) 11月25日 加藤孝太郎研究員
- ⑨ 「MOA食育ネットワーク千葉ハピネスクラブ健康セミナー」(市川市) 11月26日 内田誠也主任研究委員
- ⑩ 「第27回日本統合医療学会報告会」(港区) 1月16日 内田誠也主任研究員
- ⑪ 「全国チーフ会」(熱海市) 2月1日 加藤孝太郎研究員
- ⑫ 「自然農法大学校」(伊豆の国市) 2月29日 田中英明研究員
- ⑬ 「第7回セミナー「在宅医療と学会年次大会について」」(宇都宮市) 3月17日 内田誠也主任研究員

【健康チェック】24回 624名

- ① 東京療院18回 324名
- ② 名古屋療院(8月7日) 16名
- ③ 市川市2回(11月3日/11月26日) 144名
- ④ 伊豆の国市1回(11月12日) 140名

4. 事業基盤の充実と拡大

(1) 賛助会員

賛助会員登録数は、団体会員20団体、個人会員1,669名(令和6年3月末現在)である。

特に本年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から健康増進セミナーや健康度測定の中止を余儀なくされ、広報活動の自粛から会員数は昨年度と比較し減少傾向となった。

そのような状況の中にはあるが健康情報誌の作成（ニュースレター）やチラシの配布等を通して積極的に賛助会員入会の案内を進め、新規に法人会員団体1団体及び個人会員61名の入会を得ることができた。なお、能登半島地震の影響を受けた市に在住する賛助会員の更新期限を1年間延長した。

（2）寄付金収入

地域のシンポジウムや講演会、DVDの頒布、ホームページ等を通して研究成果を広く伝え、統合医療の有効性を訴えていくことにより、財団運営・活動へのご支援を積極的にお願ひしてきた。本年度は、賛助会員や関係者及び各団体をはじめ一般の方々から、年間で約50万円の真心こもる寄付金をいただくことができた。

以 上